

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

日吉西夢保育園

横浜市港北区日吉本町 5-74-1

運営主体：社会福祉法人 夢工房

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～3 ページ
評価領域ごとの特記事項	4～5 ページ
分類別評価結果	6～17 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	18～26 ページ
利用者本人調査分析	27～29 ページ
事業者コメント	30～32 ページ

2009年3月27日公表

実施機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	日吉西夢保育園（保育所）	
報告書作成日	2009年3月26日	評価に要した期間 3ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間 08年12月中旬～09年2月17日</p>	<p>勉強会の日程を決め、各項目について共通理解ができるように、話し合いを行った。</p> <p>各自で記入をし、質問等は職員会議で再度話し合いを行った。クラスごとに会議を行い、意見交換をしながら確認した。各クラスより持ち寄り、園長・主任を交えて協議し、合意してまとめた。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間 09年1月19日～09年2月1日</p>	<p>全園児の保護者（103家族）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配布した。なお、保護者の個別の状況に合わせて、日本語以外の言語でもアンケート用紙を作成した。各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日：第1日 09年2月25日 第2日 09年2月27日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前：各クラスで保育観察。 昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後：書類調査。適宜保育観察も実施。 その後、園長・主任に面接調査。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前：朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。 昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後：各クラス担任保育士6名、保健師1名、栄養士1名、非常勤職員1名、副主任・主任にそれぞれ面接調査。 その後、専務理事・園長・主任に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日：第1日 09年2月25日 第2日 09年2月27日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施した。幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【日吉西夢保育園】

【施設の概要】

「日吉西夢保育園」は、横浜市営地下鉄グリーンライン「日吉本町」駅から徒歩10分ほどの高台にあります。付近は、閑静な住宅地域で、高田東小学校・日吉台西中学校、日吉本町鯛ヶ崎公園などがあり、恵まれた立地条件となります。

当保育園は、2007年(平成19年)4月1日に横浜市から民間に移管された保育園です(移管前の公立保育園の開設は1978年4月1日)。開園時間は、延長保育の時間も含めて、月曜日から金曜日の午前7時から午後8時までと、土曜日の午前7時から午後7時までとなっています(日曜日・国民の祝日は休園日)。

平屋建ての園舎内は、年齢ごとに分かれている6つの保育室、幼児のランチや異年齢交流などで使用するホール、調理室、事務室、更衣室や倉庫などがあり、保育スペースだけでなく紙芝居や備品などの用具を収納する空間も十分にあります。また、民間移管後にトイレ・調理室を改修しています。さらに敷地内には、十分な広さの園庭が幼児用と乳児用の2種類あります。

運営法人は、「社会福祉法人 夢工房」です。法人では、保育園や特別養護老人ホームの運営を兵庫県中心に大阪府や神奈川県横浜市でも展開しています。また、現在保育園は12園(うち神奈川県横浜市で2園)運営していますが、今後も新園を設立の予定です。

保育理念は「子どもの最善の利益を考慮し、利益者主体を根幹に、行政・地域・保育所の綿密な連携を強化し、地域の子育ての支援事業の核となる」を掲げています。また、保育方針は、子どもたちが「生きる力を身につけていく」「他人の気持ちが分かる」「自分らしく生きる」「個性豊かに育つ」ことに重点を置きつつ、地域へのかかわりも大切にしたいものとなっています。

高く評価できる点

1、子どもたちは、恵まれた環境で思い思いに楽しみながら、自然体で過ごしています

各保育室では、年齢に合った空間を演出する工夫をしています。具体的には、ままごとコーナーに敷物とテーブルを置いたり、簡単な仕切りでブロック遊びの小空間を確保したり、押し入れの下を隠れ場所にしたり、違う活動では室内の仕切りをはずしたり、ホールをイベントのほかにもランチルームとして活用するなど、さまざまな環境構成の工夫が随所に見受けられます。

子どもたちは自分が好きな空間で、時には一人で、時には小グループで思い思いの室内遊びを楽しんでいます。幼児クラスの遊びでは、楽しい発想や工夫を取り入れながら新しいルールを作り、創造力を働かせている子どもも数多くいます。

また施設内には、幼児・乳児用と2種類の広い園庭があり、プールも備え付けられています。近隣の保育園と一緒に年1回開催しているドッジボール大会や、保育プログラムにある体操の時間においても、この園庭を使用しています。その他、付近には子どもたちが歩いて行ける範囲に公園が8ヶ所あり、緑の多い地域のため、自然に触れる機会に恵まれています。

子どもたちは、このような恵まれた環境で、時には一人で、時には小グループで思いっきり屋外遊びを楽しんでいます。大好きな遊びには、色鬼・氷鬼やどろんこ遊びなどがあります。

室内・屋外の恵まれた環境の中で、子どもたちは思う存分やりたいことをやりながら日々を過ごすことにより、集中力・想像力だけでなく、思いやり・個性を自然と育てています。

2、経験豊富な園長・主任を中心に、保育技術の継承と良好な職場環境づくりに励んでいます
法人における「優秀なスタッフが生き生きと働ける職場でなければ、よりよい保育は目指せない」という考えのもと、職員のモチベーションにつながる人事評価面談や職員意識調査を定期的に行っています。専務理事や園長が、職員一人ひとりの保育に対する姿勢や考え方を丁寧にヒアリングすることにより、職場内や職員間の相互理解を深めていきます。

さらに、公立保育園・横浜保育室などでも施設長経験がある園長・主任が中心となって、日々の保育で気づいた点や改善すべき事項は、その都度ケース会議などの場で具体的事案として、園全体の問題として検討しています。特に子どもに対する言葉遣いや対応については、必要に応じて園長と職員数人における勉強会を任意に開催し、保育技術の継承に努めています。

さらに、乳児クラスと幼児クラスに一人ずつ副主任を配置しています。クラス別の活動が多い中で、各担任の情報共有を目的とした乳児・幼児ミーティングを定期的で開催したり、日々の保育における職員一人ひとりの悩みごとを聞いたりしながら、職員間の潤滑油的役割を担っています。

また、保育士だけでなく保健師・栄養士も良好な保育園には欠かせません。保健師は毎日必ず午睡時に全クラスを回り、子どもたちの体調やケガなどについて確認・記録をし、最近では、より園の実情にあった衛生管理をするため、率先してマニュアル改定を行っています。栄養士は、子どもたちの食への関心が高まるように配慮した食育計画の策定を行っています。例えば、4、5歳児は毎月クッキングか栄養士のお話の日を設け、菜園活動とも関連付けたりしています。

このような体制のもと、保育技術の継承とより良い職場環境づくりに園全体で励んでいます。

3、保護者会を通じて保護者との連携を密に行いながら、より良い保育を目指しています

横浜市からの民間移管1年目であった昨年(2007年度)は、三者協議会(保護者、法人、横浜市)を月1回開催してきました。そこでは、公立園時代の保育や移管後の目指したい保育・子どもたちの姿を、十分な時間をかけて話し合ってきました。その結果2年目の現在は、保護者の意向を踏まえながら、園が目指す保育を徐々に実現しています。

具体的には、食べる空間を保育室とは別に設けるため、ホールを幼児クラスのランチルームとして使用したり、新しいテーブルを購入したり、乳児クラスの子どもたちに配慮した日よけ用ひさしを購入したりするなど、徐々に保育環境の改善が進められてきています。

一方、園からの働きかけだけでなく、保護者会側からも積極的に意見・要望が出されてきました。本年度は移動動物園を招いたり、バザーの開催をしたりなどが実現できています。さらに、保護者一人ひとりの意見を聞くために、各保育室には保護者会宛ての意見箱と意見用紙が設置されています。

園では保護者との強固な連携を進めることで、一体となって「子どもたちのためのより良い保育の実現」を目指しています。

さらなる取り組みが期待される点 より地域に開かれた保育園の運営を

当保育園は、公立保育園時代からも含めると開設30年になります。長年の歴史を踏まえると、地域から広く認知されている保育園であると言えます。しかしながら、民間の保育園に変わってからの保育理念や保育の特徴についての認知度は、前述した「長年の歴史」と比較すると十分とは言えません。

移管2年目ということもあり、今までは園内の運営・保育の充実に重点を置いてきました。今後は地域に対して十分な周知活動を行いながら、より多くの地域住民へ相談事業や子育て支援をしていくために、他施設との検討会・研究会開催などの取り組みを展開し、地域のニーズの把握をより積極的に進めることが望まれます。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

【日吉西夢保育園】

1、人権の尊重

- ◇ 保育理念は「子どもの最善の利益を考慮し、利益者主体を根幹に、行政・地域・保育所の綿密な連携を強化し、地域の子育ての支援事業の核となる」と掲げていて、利用者本人を尊重したものとなっています。
- ◇ 個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員、実習生と「利用者情報保護誓約書」を交わしています。保護者に対しては入園説明会で説明し、子どもの写真を撮ることについても承諾書を書いてもらっています。また、個人情報に関する書類は事務所の施錠できる棚に保管しています。
- ◇ 虐待の定義、予防、早期発見などについて、マニュアルをもとにして内部研修を行い、職員に周知しています。また、関係機関との連携体制を取っています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ◇ 各保育室は、自由に遊ぶときには年齢に合ったコーナーを作り、広く使いたいときには仕切りをはずし、ランチルームも活用するなど、子どもの状態や発達段階に配慮した環境構成を工夫しています。また、おもちゃは子どもたちの発達段階や興味・関心に応じたものを用意し、時に入れ替えをしています。
- ◇ 日々のプログラムに柔軟性を持たせ、子どもたちの遊びの様子を見ながら、十分に遊んで無理なく次の行動に移れるような配慮をしています。
- ◇ 4、5歳児クラスを中心に、プランターで花や野菜を育て、種まき、水やり、成長の観察、収穫などを保育活動に取り入れています。また、栄養士が年間の食育計画を作成し、菜園活動とも関連付けて、食への関心が高まるように配慮しています。
- ◇ 排泄は子どもの個人差を尊重し、初めは保育士がリズムをとらえてトイレに連れて行きますが、次第に自立し、幼児は保育士に告げて、自分で自由にトイレに行っています。
- ◇ 地域交流では、近隣の保育園3園と、毎年ドッジボール大会をしているほか、近くの系列園とは、5歳児のお泊まり保育を一緒にしています。
- ◇ 園は保護者会との連携に力を入れていて、保護者の自主的な活動を支援しています。役員会にも園長、主任が出席してよく話し合い、協力体制ができています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 保育計画は、保護者の実状を考慮しながら作成することを目指し、忙しい送迎時にも保育内容が分かるように、クラスに写真を貼るためのボードを1つ設置し、日々の保育内容を保護者へ分かりやすく伝えています。また、保育参加の日程なども、保護者の予定を立てやすくし、できるだけ負担がかからないよう心がけています。
- ◇ 指導計画の作成・評価・改訂にあたっては、月1回のカリキュラム会議や週1回の職員会議などで、複数の職員が参画して行い、園長が修正箇所を赤字で追記し、翌月の評価に役立てています。また、日々の会話・連絡ノート・個人面談により、保護者の要望や意見をくみ取り、指導計画に反映することを心がけています。
- ◇ 苦情受付担当者を主任、解決責任者を園長とし、苦情解決体制・申し出方法を保護者にプリントで配布し、説明するとともに、玄関にも掲示しています。保護者からの要望や苦情については、職員会議で話し合って検討・共有し、すべての事案について迅速に対応することを心がけ、必要であれば保護者への回答書を配布しています。また、過去に起きた事例は、インターネットで情報公開するとともに

に、法人として系列すべての園に情報を提供し、現場の改善に役立てています。

- ◇ 「子どもの健康と安全を守るために」と題したファイルに、健康管理・衛生管理・安全管理・虐待への対応・防災防犯対策がそれぞれまとめられていて、職員会議で共有し、また、いつでも職員が見られるようにしています。

4、地域との交流・連携

- ◇ 地域の子育て支援サービスとして、園庭開放、交流保育、育児講座、育児相談を行っています。育児講座に出席した人にはアンケートをとり、施設に対する要望を聞いています。
- ◇ 園の行事である夏祭り、運動会、もちつきなどに、地域住民を招待して、地域交流を図っています。
- ◇ 近隣の小学校から、5歳児クラスの子どもたちが体験入学に招待されて、3校を訪問しています。また、中学校の職業体験や家庭科の保育実習を園として受け入れています。
- ◇ 民間移管2年目ということもあり、これまでは園内の保育の充実に力を注いできましたが、今後より地域のニーズに敏感に、地域に目を向けた運営が期待されます。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 職員が守るべき法・規範・倫理等について、法人主催の新人研修・職員会議・就業規則において説明しています。
- ◇ 保育理念・保育方針は明文化し、玄関に掲示するとともに、書面化したものを職員に配布し、周知徹底を図っています。年1回の法人主催による職員説明会でも説明し、職員会議においても適宜説明し、職員一人ひとりが、同じ保育理念(価値観)を持ちながら、日々の保育を実践できるように心がけています。また、人事評価時の園長面談において、保育士の行った自己評価をもとに、園の保育理念の理解度・目標の達成度・専門スキルの習熟度などを確認しています。
- ◇ 法人として、全国社会福祉施設協議会・専門情報誌や独自のネットワークになどにより、さまざまな保育・経営情報の収集に努めています。また、重要な情報は、法人主催の施設長会議で話し合い・検討を行っています。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 職員が保育理念・方針に共感・理解するために、法人では年2回の幹部・中堅職員研修や年1回の新人職員研修を定期的開催しています。また、採用時には「面接」「適性検査」「グループ討議」「筆記(作文)」「実技試験」を行い、必要な人材の確保に努めています。
- ◇ 保育理念や方針を実践する保育を行うために、法人独自の人事考課制度を活用しながら、計画的な人材育成が行われています。人事考課制度では、成績・専門要素(主要業務に必要な能力)・共通要素(積極性・協調性など)を評価し、職員一人ひとりと園長または法人専務理事が面談しながら、丁寧な人材育成計画を策定しています。
- ◇ 園長・主任・保育士・保健師・栄養士それぞれの役割を明文化しています。また、園長面談の際に、職員の専門能力の習熟度・社会人マナー・本年度の目標・前年度の反省(課題)点などさまざまな項目を十分に話し合いながら、職員一人ひとりの経験・能力や習熟度に応じた役割や期待水準を明文化しています。
- ◇ 保育技術の継承を目的として、園長と保育士数人が小グループで、園内で起きた具体的な事例をもとに、勉強会を随時行っています。
- ◇ 実習生受け入れマニュアルは、職員向けと実習生向けのものを作成しています。実習のプログラムは、園の実情に応じて実習生と相談し、できるだけ希望を入れるようにしています。また、実習の反省会を他職員も交えて行い、意見交換の機会を作っています。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。




「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 法人理念の3つ(「社会福祉法の理念を尊び、利用者の人権を保障する」「第一に利用者の利益を尊重し、福祉サービスのよりよき供給の担い手となるべく邁進する」「常にサービス利用者の要望に答えるべく行動し、かつ地域社会との共生を目指す」)を基本とした保育理念を掲げています。 保育理念は「子どもの最善の利益を考慮し、利益者主体を根幹に、行政・地域・保育所の綿密な連携を強化し、地域の子育ての支援事業の核となる」と掲げていて、利用者本人を尊重したものとなっています。また、保育方針は、子どもたちが「生きる力を身につけていく」「他人の気持ちが分かる」「自分らしく生きる」「個性豊かに育つ」ことに重点を置きつつ、地域へのかかわりも大切にしています。 保育計画は保育方針に沿って作成しています。保育方針の中にあるように「心身の調和のとれた体力づくりを目指す(他人の気持ちが分かる子ども)」ため、園庭だけでなく、園の周りに数多くある公園に行くようにし、園の地域性を考慮しながら保育計画を作成しています。また、保護者の実状を考慮しながら保育計画を作成することを目指し、忙しい送迎時にも保育内容が分かるように、クラスに写真を貼るためのボードを1つ設置しながら、日々の保育内容を保護者へ分かりやすく伝えています。 指導計画は、子どもの個人差にも対応できるように1年間を4期に区分して作成しています。指導計画の項目は、「保育のねらい」「生活」「遊び」「保育士の援助・配慮」「環境構成(物的・人的)」などがあり、丁寧に作成しています。また園長が赤字で修正を行いながら、子ども一人ひとりの自主性や主体性を大切にし、柔軟性を持たせた計画となるように心がけています。

- 2 子どもの発達や状況
に応じた適切な援助の実施



- ・ 入園前に子どもの発達状況や課題を把握するため、入園児面接記録に、「健康面」「食事」「送迎者」などの項目ごとに記載し、保育計画に反映できるようにしています。
- ・ 入園説明会で、短縮保育（ならし保育）の有無や期間について説明しています。また新入園児の受け入れに際しては、子どもが心理的に抛り所とする物の持ち込みを可とし、特に規制なく柔軟に対応しています。
- ・ 指導計画の作成・評価・改訂にあたっては、月1回のカリキュラム会議や週1回の職員会議などで、複数の職員が参画して行っています。また、園長が修正箇所を赤字で追記し、翌月の評価に役立てています。

- 3 快適な施設環境の確保



- ・ トイレや沐浴室など、施設内の清掃はチェックシートを使用し、毎日点検しています。また、施設は高台の住宅地域に位置するため、保育室すべてに十分な陽光が取り入れられています。
- ・ 沐浴・温水シャワー設備があります。皮膚を清潔に保つため、汗をかいたときや排便後に使用しています。
- ・ 0、1、2歳児は保育士の担当制をとっていて、それぞれの子どもに主にかかわる保育士を決めるとともに、子どもたちが少人数でいつでも好きな遊びが選んでできるように努めています。
- ・ 月1回の「お誕生会」では、0、1歳児を含めた全クラス合同で行っています。その他にも、5歳児が0、1歳児の着替えやお昼寝のお手伝いをしたり、廊下で手を取りクラスへ送ってあげたりなど、自然な形で異年齢児間が触れ合う場面が多く見受けられます。

- 4 一人ひとりの子ども
に個別に対応する努力



- ・ 発達の状況変化が著しい時期である0、1、2歳児については、「生活」「個別の配慮」などの項目で個別指導計画を作成し、毎月1回評価・反省をしながら、子どもたち一人ひとりの発達状況に応じた保育を行っています。
- ・ 特別な課題がある幼児に対しては、過去の成長記録や個別配慮事項の記録などを参照し、専門機関や保護者と連携をとりながら、日々の保育を行っています。
- ・ 子どもたち一人ひとりの個人情報は「児童票」に記録しています。「児童票」には、既往歴・成長記録・保育経過記録・保護者の要望等を記録し、事務所内に保管・管理しています。なお、保育経過記録には生活面や成長記録(健康、人間関係、環境、言葉、表現など)が細かく丁寧に記載されていて、職員はいつでも見ることができます。

- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み




- ・ 特に配慮を必要とする子どもについては、週1回の職員会議・ケース会議や乳児・幼児のミーティング等で全職員がかかわりながら話し合いを行い、記録をしています。また、個別の保育経過記録は、職員がいつでも確認できるように保管・管理しています。
- ・ 施設内はバリアフリー構造ではないものの、車いすを使用する障がい児に対しては、人的介助で対応しています。また、入所している子どもの状態に合わせた備品(いすなど)を特注で依頼し、その子どもの障がいの特性や他児とのかかわりについて配慮しています。
- ・ 一人ひとりの障がい児について、成長記録や個別配慮事項の記録などを参照し、専門機関や保護者と連携をとりながら、日々の保育を行っています。
- ・ 障がいのある子とない子のかかわりについて、園では障がいのある子どもがゆっくりと成長していけることを心がけ、子どもたち同士が分け隔てなく仲間として接し、人間的な心の成長を考えた保育を目指しています。
- ・ アレルギー疾患についての必要な知識や情報は、保健師・栄養士が中心になって学習会を行い、職員間の情報共有を徹底しています。また、食物アレルギーについては、アレルギー検査の結果を踏まえて、栄養士と保育士間、保育士と保護者間の連携を密にしています。食事の時間に除去食を提供する際は、調理師と保育士・保育士同士が二重チェックを行いながら、チェックシートに記載し、配膳ミスが起こらないように、厳重に管理しています。
- ・ 保護者が外国籍の子どもに対しては、文化や生活習慣の違いを認め尊重し、保護者の意向を大切にしています。

- 6 苦情解決体制



- ・ 苦情受付担当者を主任、解決責任者を園長とし、苦情解決体制・申し出方法を保護者にプリントで配布し、説明しています(玄関にも掲示)。
- ・ 保護者からの要望や苦情については、職員会議で「内容や希望」「申し出人への確認」「想定原因」「処理経過」「結果」と段階を踏まえて話し合い、検討・共有しています。また、すべての事案について迅速に対応することを心がけ、必要であれば保護者への回答書を配布しています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="161 389 472 427">- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="620 259 1474 421">・ 各保育室は、自由に遊ぶときには年齢に合ったコーナーを作り、広く使いたいときは仕切りをはずし、また、ランチルームも活用するなど、子どもの状態や発達段階に配慮した環境構成を工夫しています。 <li data-bbox="620 439 1474 645">・ おもちゃも子どもたちの発達段階や興味・関心に応じたものを用意し、時に入れかえもしています。4歳児クラスでは、子どもたちがちょうど平仮名や数字に興味をもっているので、カルタ、トランプなどもおもちゃ棚に置いてあり、子どもが自由に取り出して遊んでいました。 <li data-bbox="620 663 1474 913">・ 一斉活動は、各年齢で自然な形で取り入れています。例えば、保育士は朝、その日のテーマとしている製作の材料を、子どもの興味を引くように保育室に置いておきます。それを見て何人かの子どもが製作を始めます。保育士のさりげない働きかけで、興味の輪が広がり、ほかの子どもも次第にやりたくなくなって製作を始める、というようなやり方をとっています。 <li data-bbox="620 931 1474 1093">・ 4、5歳児クラスを中心にして、プランターで花や野菜、ひまわり・枝豆・オクラ・小松菜などの栽培をしています。それに刺激されて3歳児もカイワレ大根を育てました。種まき、水やり、成長の観察、収穫などを保育活動に取り入れています。 <li data-bbox="620 1111 1474 1272">・ 子どもたちの自由な表現活動を大切にして、年齢に応じてさまざまな素材を用意し、自由に使えるようにしています。色鉛筆、はさみ、のり、広告の紙を利用した折り紙、クレヨン、さまざまな種類のブロック、などがあげられます。 <li data-bbox="620 1290 1474 1585">・ 通常の保育活動の中で、異年齢のクラスで一緒に散歩に行ったり、ホールでの誕生会を全クラスで楽しんだりしています。また、年に1回、「みんなで遊ぼう」という企画をして、全園児で遊園地ごっこをしたりして、異年齢児の交流を図っています。そのためか、年齢の高い子どもが、自分より小さい子どもと自発的に自然に手をつないでホールへ向かったりする様子が何回か見られました。 <li data-bbox="620 1603 1474 1809">・ 各クラスで体操教室を取り入れています。専門の先生が年齢に応じた体操、例えばダイナミックな組み体操なども指導しています。日常の保育でもそれを応用して、運動能力を高めるようにしています。雨の日が続くと、ホールや廊下も使用して、巧技台やマットなども使って運動遊びをしています。

- 1 保育内容[生活]





- ・ 食事は、子どもたちは特に促されたり励まされたりしなくても、自分から食べ、お替りをする子どもも多くいました。年齢に応じて配膳や下膳に参加しています。また、栄養士が年間の食育計画を作成し、子どもの食への関心が高まるように配慮しています。4、5歳児は毎月、クッキングか栄養士のお話の日を設けています。
- ・ 例えば、クッキングでは栄養士も協力して、スナップえんどうなど数種類の豆類のすじを取ったり、ゆでて味わったり、さつまいもを自分たちで切ってマフィンを作ったりしています。また、自分でおにぎりをにぎって、それをおやつにする「自分でおにぎり」という日も作ったりして、食への関心を育てています。栄養士のお話では、例えば「かむことの大切さ」というテーマでよくかむことを教え、実際に大豆やごぼう、胚芽米など、よくかんで食べる「カミカミメニュー」を作っています。
- ・ 食べる場所と寝る場所を区別するようにして、幼児は交代で、ランチルームで食事をしています。ランチルームでは木製の丸テーブルにテーブルクロスをかけたたりし、保育室でもナプキンを使用したり花を置いたりして、食事の雰囲気作りに配慮しています。
- ・ 栄養士が毎月、保育士対象に「給食アンケート」をとり、給食・おやつのベスト3・ワースト3と、マイナス面のコメントを書きってもらっています。それを集計し、それぞれのメニューの味・外観・全体としての評価をしています。また、毎月1回給食会議を開き、保育士と話し合い、献立、盛り付け、調理方法などに反映するようにしています。
- ・ 保護者に向けて毎月1回「給食だより」を発行し、献立作成のポイントも記しています。例えば、「お弁当作りのヒント」「食べ物の旬を知ろう」というような情報提供をしています。また、毎回人気レシピを紹介したり、「保育園の食育について」というコラムを作ったりして、園の食事について保護者の関心を促しています。
- ・ 睡眠に関しては、乳幼児突然死症候群に対する対策として、0歳児は15分おき、1歳児は30分おきに呼吸チェックをして睡眠表に記録しています。
- ・ 排泄は個人差を尊重し、初めは保育士が子ども一人ひとりのリズムをとらえてトイレに連れて行きます。自立した後は、食事前などはみんなでトイレに行きますが、その他のときは子どもが保育士に告げて、自分で自由にトイレに行っています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- ・ 子どもの健康管理に関するマニュアルは、入所時における注意事項や毎日の健康管理、アレルギー対応などについてまとめられていて、それに従って子どもの健康状態が把握されています。保健師は毎日必ず午睡時に全クラスを回り、子どもたちの体調やケガなどについて確認し、保健日誌に記録しています。
- ・ 子どもの健康状態については、必要に応じて担任から、あるいは保健師から保護者に伝え、降園後の家での対応についても話合っています。今回の第三者評価に伴う家族アンケートでは、「子

	<p>どもの体調への気配り」について 90%近くが満足と回答しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの健康診断・歯科健診の記録があり、健診の結果は、必要に応じて保健師から個別に保護者に伝えていきます。また、毎月の「ほけんだより」で、全体的な健診の結果を知らせています。 感染症の登園停止基準や感染症への対応については、感染症マニュアルが作成されています。保護者に対しては、「入園のしおり」に詳しく記載しています。 保育中に感染症が発症した場合は、すぐに保護者へ連絡しますが、保護者の事情によっては、お迎えに来られるときまで事務所で見守るなどの対応をしています。またその日のうちに、発症状況について、各クラスと延長保育の部屋にお知らせを掲示して、全保護者に知らせます。「ほけんだより」では前月の様子をまとめて知らせています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 衛生管理マニュアルは、法人の作成したものを園の実情に合わせて保健師が細かい部分を見直し、新たに作成しました。作成されたマニュアルは職員会議で共有し、さらに回覧で回して周知を図りました。 清掃はマニュアルに従って行い、清掃点検チェック表に記入しています。園内は清潔・適切な状態に保たれています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理マニュアルとしては、「保育安全マニュアル」に、きめ細かく、事故予防対策、発生時の対応と手順、環境整備などを具体的に記しています。その他「安全点検表」があり、園舎内外の各所の破損や不具合がないかをチェックしています。これらは職員会議で周知しています。 事故があった場合は、その都度会議で職員に報告し、事故記録簿に記録します。改善策は職員会議で話し合い、さらにデータ化して分析しています。事故報告は法人のホームページでも公開しています。 不審者等の侵入防止策としては、外からの2ヶ所の出入り口を電子錠にして、登降園ラッシュ時を除いて施錠しています。また、事務所は警備会社とつながっていて、防犯カメラも作動するようになっています。

- 3 人権の尊重



- ・ 「子どもの気持ちや発言を受け入れる」という配慮が、各年齢の指導計画に配慮事項として書かれています。保育観察でも、けんかの際などに、保育士が子ども双方の気持ちをよく聞いている様子が観察されました。
- ・ 保育室内では、押し入れの下などが、ほかの子どもや保育士の視線を意識しないで過ごせる場所として、子どもたちに好まれています。また、ホールや事務室も、子どものプライバシーが守れる場所になっています。子どもたちは事務所に慣れ親しんでいます。
- ・ 個人情報の取り扱いについてはガイドラインがあり、法人のホームページでも「プライバシーポリシー（個人情報の取り扱いについてのご説明）」として、基本方針を具体的に明記しています。職員には会議で確認しています。
- ・ 個人情報の取り扱いについて、保護者に対しては入園説明会で説明し、子どもの写真の取り扱いなどについての承諾書を書いてもらっています。
- ・ 虐待の定義などについて、マニュアルをもとにして内部研修を行っています。虐待が明白になった場合には、児童相談所に通告・相談する体制になっています
- ・ 遊びや服装、また順番やグループ分けは性差で行っていません。
- ・ 子どもに対する言葉遣いや対応について、園長が日ごろの保育の様子から、必要に応じて具体的な事例によるレクチャーをして、職員の意識の向上を図っています。



- 4 保護者との交流・連携






- ・ 園の基本方針について、保護者に対しては、入園説明会や懇談会で説明しています。保護者会の総会でも、法人の理念をスライドなども使用して説明しています。
- ・ 行事の後に必ずアンケートをとり、保護者の意向を確認し、また、アンケートの結果を保護者にも知らせています。
- ・ 園生活に関する情報提供として、毎月「園だより」「給食だより」「ほけんだより」を発行しています。
- ・ 日々の保護者との連携としては、乳児は連絡帳や口頭で個別の情報交換をし、さらにクラスノートでクラスの様子を伝えていきます。幼児はクラスノートでその日の活動の様子を伝え、個別の連絡は直接口頭で保護者に伝えていきます。
- ・ その他、子どもの製作したものの写真を撮ったり、体操教室での子どもの姿を写真に撮って、額に入れて保育室に飾ったりして、日常の保育の様子を伝える努力をしています。
- ・ 個人面談は、全園児対象に、全クラスで年に1回実施し、保護者懇談会は年に2回行っています。保護者懇談会は、保護者の希望をくんで土曜日に行っていますが、それでも参加できない保護者には、懇談会報告書を配布しています。
- ・ 保育参加については、期間を決めて参加を呼びかけていますが、その期間以外でも、年間を通して随時受け入れています。現在のところ、年間10家庭ぐらいが参加しています。

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・ 保護者からの相談は、担任が受けた場合、主任や園長が助言を与えるしくみになっています。相談内容は必要に応じて個人記録に残しています。・ 園は保護者会との連携に力を入れていて、保護者の自主的な活動を支援しています。役員会にも園長、主任が出席してよく話し合い、協力体制ができています。保護者会主催の行事、夏祭りや芋ほりなどには、企画から職員も参加して、協力しています。 |
|--|--|




評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域への子育て支援サービスとして、園庭開放、交流保育、育児講座、育児相談を行っています。 ・ 園庭開放は原則として毎週月曜日に行い、平均して毎回6~7組の親子が参加しています。 ・ 交流保育は、今年度（2008年度）は園行事の夏祭りともちつきの際に行いました。 ・ 育児講座は、今年度（2008年度）は手作りおもちゃや離乳食に関する講座を2回行いました。育児講座に出席した人にアンケートをとり、要望に答えて、来年度は3回開催します。 ・ 民間移管後2年目だということもあり、今までは園内の運営・保育の充実に重点を置いてきました。今後は地域に対して十分な周知活動を行いながら、地域からのニーズの把握や子育て支援の充実に向けて、段階を追って進めていく予定です。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園の情報は法人のホームページで提供しています。 ・ 育児相談は随時受け付けています。 ・ 関係機関とは、必要な場合に連携できる体制になっています。園長が関係機関との連携の担当者になっています。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の地域開放として、園の行事である夏祭り、運動会、もちつきなどに、地域住民を招待しています。 ・ 地域との交流としては、小学校に働きかけて、5歳児クラスの子どもたちが小学校と交流するようになりました。現在小学校から体験入学に招待され、3校を訪問しています。また、園として、中学校の職業体験や家庭科の実習を受け入れています。 ・ また、近隣の保育園3園と、毎年ドッジボール大会をしているほか、太鼓を見に行くなどの交流もあり、系列園とは、5歳児のお泊まり保育を一緒にしています。 ・ その他、近隣との友好的な関係を築く努力をしています。近所の農家と親しくなり、さつま芋の苗を植えるときに見せてもらい、芋ほりもさせてもらっています。笹竹のある個人の家とも親しくなり、七夕の笹はその家から提供してもらっています。 ・ 地域の団体や機関との交流としては、園長が町内会長などと親しくしていますが、園として定期的・計画的に交流を図るまでにはいっていません。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園の情報は、パンフレットやホームページで提供しています。 ・ 外部の報道機関の取材には快く応じていて、子どもたちの様子や踊りなどを取材してもらっています。 ・ 園に対する問い合わせには、常時対応しています。また、法人本部も問い合わせに応じています。 ・ 利用希望者の見学には応じています。見学の時間は、在園児にさしつかえないように、食事や午睡の時間を避けて、主に午前中に受け入れています。曜日は、見学者の希望や都合を考慮して、土曜日も受け入れています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア・実習生それぞれの受け入れマニュアルがあり、職員の理解、ボランティア・実習生の理解、双方についての手引きとなっています。 ・ ボランティアとして、体験学習の中学生を受け入れています。 ・ 実習生の受け入れ担当者は、総括として園長・主任、直接の実習指導としてクラス責任者が当たっています。受け入れ時の記録も整備されています。 ・ 実習生は毎日実習日誌を書き、指導担当者が助言していますが、そのほかに実習反省会を他職員も交えて行い、意見交換の機会を作っています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が保育理念・方針に共感・理解するために、法人では年2回の幹部・中堅職員研修や年1回の新人職員研修を、定期的で開催しています。また、採用時には「面接」「適性検査」「グループ討議」「筆記(作文)」「実技試験」を行い、必要な人材の確保に努めています。 保育理念や方針を実践する保育を行うために、法人独自の人事考課制度を活用しながら、計画的な人材育成が行われています。人事考課制度では、成績・専門要素(主要業務に必要な能力)・共通要素(積極性・協調性など)を評価し、職員一人ひとりと園長が面談(副主任以上は専務理事が面談)しながら、丁寧な人材育成計画を策定しています。 主任が研修担当であり、各職員の資質向上に向けた計画作りを行うとともに、面談を通じた聞き取りによって、各職員の研修ニーズにも配慮しています。受講した研修の成果を職場で活かすため、職員が職員会議とは別の場で研修の内容を報告し、情報共有に努めています。また、保育技術の継承を目的として、園長と保育士数人が小グループで、園内で起きた具体的な事例をもとに、勉強会を随時行っています。 園では、非常勤職員にも常勤職員と同様の資質が求められていることを理解しています。常勤・非常勤を問わず、基本理念や方針・行動規範などを実現していくためのマニュアルは完備しています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 週1回の職員会議や乳児・幼児のミーティング等で、保育内容や保育技術についての確認や反省を行っています。また、法人全体で系列園の良い事例を共有したり、法人統括園長からの指導により、日々の保育の検討・見直しを行ったりしています。 必要に応じて本部や外部からの講師を招き、体操・英会話などの専門的な指導を受け、日々の保育に役立てています。また、本部から派遣される法人統括園長より専門的な助言・相談・指導を得るなど、保育技術の評価・指導を受ける仕組みを確立しています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 園長・主任・保育士・保健師・栄養士それぞれの役割を明文化しています。また、園長面談の際に、職員の専門能力の習熟度・社会人マナー・本年度の目標・前年度の反省(課題)点などさまざまな項目を十分に話し合いながら、職員一人ひとりの経験・能力・習熟度に応じた役割や期待水準を明文化しています。 園長・主任・副主任は保育士との日常的なふれあいを大切にし、保育士の心情や保育内容を把握するように努めています。また、園長面談・職員異動調査・上司評価(職員からの施設長を評価する仕組み)を定期的に行い、職員の意見・要望・満足度を把握しています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員が守るべき法・規範・倫理等について、法人主催の新人研修・職員会議・就業規則において説明をしています。 ・ 法人による施設長会議では、経営・事業運営に関する情報が報告されています。施設長会議で報告された法人の情報は、施設長の責任において職員に周知徹底しています。また、ホームページでは法人の経営・運営状況を公開しています。 ・ ゴミの減量化やリサイクルに関しては、新聞紙や裏紙の利用をしながら、ゴミの減量化に努めています。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育理念・保育方針は明文化し、玄関に掲示するとともに、書面化したものを職員に配布・周知徹底し、全職員が理解しています。また、人事評価時の園長面談において、保育士の行った自己評価をもとに、園の保育理念の理解度・目標の達成度・専門スキルの習熟度などを確認しています。 ・ 常日ごろからの保護者とのコミュニケーションを大切にし、重要な意思決定だけでなく、運動会などの行事についても、保護者会を介して継続的に意見交換を行っています。その他、アンケートの実施・意見箱の設置などを行い、積極的に保護者からの意見を聞くことに努めています。 ・ 法人主催による幹部職員・中堅職員研修を定期的で開催しています。副主任や主任への昇格試験も定期的に行い、スーパーバイズのできる主任クラスの計画的な育成プログラムが確立しています。 ・ 主任・副主任は日ごろより、個々の職員の性格を考慮した指導・アドバイスをタイミングよく行うように努めています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人として、全国社会福祉施設協議会・専門情報誌や独自のネットワークになどにより、さまざまな保育・経営情報の収集に努めています。また、重要な情報は、法人主催の施設長会議で話し合い・検討を行っています。 ・ 運営面での重要課題（保育指針の改定・保育内容の向上・法人の財務状況や職員体制及び職員の労働条件など）については、法人主催の施設長会議で報告・検討した後、各園長が職員会議を通じて職員に納得できるような説明を行い、全体の取り組みとしています。 ・ 法人として、短中期的な事業計画を策定しています。「市場の現況」「行政の動向」等を分析・協議し、短中期計画の策定に役立っています。また、法人の事業運営については、監査法人による監査など、外部機関の専門家から意見・助言を取り入れています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

【日吉西夢保育園】

- 1、実施期間 2009年1月19日～2月1日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 約53.4%（103枚配付、55枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...7人、1歳児クラス...8人、2歳児クラス...10人、3歳児クラス...15人、
4歳児クラス...8人、5歳児クラス...6人、無回答...1人

ただし同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

文中の「満足」「満足度」は、「満足」「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、
「不満」は、「不満」「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

設問ごとの特徴

【問1】保育園の基本理念や基本方針について

約50%の保護者が「よく知っている」「まあ知っている」と答えています。「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者のうち90%以上の方が、保育目標や保育方針に「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えています。

【問2】入園時の状況について

「入園時」に関する設問のために、多くの保護者は自由記入欄に“民間移管前に入園したので該当しない”と書いています。そのために「その他」の数値が高くなっていると判断できます。「その他」の数値を除いて満足度を測ると、概ね80%程度の満足度になっています。

【問3】年間の計画について

「年間の保育や行事についての説明」「保護者の要望が活かされているか」についての2項目とも、約80%の満足度です。自由記入欄には、“夏祭りやおもちつきなどの新しい行事が良かった”という声が多くある反面、行事の日程が変更されたことへの不満が、多くの保護者から出ていました。

【問4】日常の保育内容「遊び」「生活」について

「遊び」の項目では、「クラスの活動や遊び」「戸外遊び」「園外活動」「遊びを通じての友だちや保育者との関わり」については80%台の満足度、「おもちゃや教材」「健康づくりへの取り組み」がいくらか低く約75%の満足度でした。自由記入欄には“体操教室や英語教室ができてとても良い”という意見がある一方、“外遊びが少なくなったようだ”という声が複数ありました。

「生活」の項目の満足度は高く、「給食の献立内容」については90%近く、「子どもが給食を楽しんでいるか」は95%以上の満足度です。「子どもの体調への気配り」についても満足度は高く、約90%になっています。「おむつはずし」については、自由記入欄に“民間移管前に終わっていた”“まだ始めていない”という声が多くあり、それが「その他」の欄の数値になっていると思われます。「その他」の数値を除いて満足度を測ると、約85%になります。「昼寝や休息が子どもの状況に応じているか」についての満足度はやや低くなり、70%強です。「保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応」については20%以上の不満が出ています。自由記入欄には、“ケガの説明がなかった”あるいは“説明が不十分”“連絡ノートにも書いてほしい”というような声が多く出ています。

【問5】快適さや安全対策などについて

「感染症の発生状況や注意事項など」については約80%の満足度でした。「子どもが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているか」については約75%、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」については約60%、「施設設備」については約55%の満足度です。「施設設備」と「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」については30%以上の不満がありました。自由記入欄では、門扉のロック状態への不安の声が多数あります。また、主に幼児の保護者から、「トイレが寒い」「保育室の温度や湿度管理が適切でない」という意見が寄せられています。

【問6】園と保護者との連携・交流について

「園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供」「子どもに関する重要な情報の連絡体制」「保護者からの相談事への対応」については80%以上の満足度、「園の行事の開催日や時間帯への配慮」「送り迎えの際の子どもの様子に関する情報交換」「送り迎えの時間に対する柔軟な対応」についてはやや低くなり、70%台の満足度、「保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会」については約60%の満足度でした。そのうち、20%以上の不満があるのが、「保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会」「送り迎えの際の子どもの様子に関する情報交換」「園の行事の開催日や時間帯への配慮」でした。自由記入欄には、「一言でいいから子どもの様子を話してほしい」「送り迎えの際に声をかけてほしい」というものが多数あり、「個人面談をもっとやってほしい」という声も複数ありました。

【問7】職員の対応について

「子どもが保育園生活を楽しんでいるか」についての満足度が最も高く、約95%でした。ついで、「子どもが大切にされているか」が約90%、「職員が話しやすい雰囲気、態度であるかどうか」については約85%の満足度です。「アレルギーや障害のある子どもへの配慮」「意見や要望への対応」については約75%の満足度ですが、「アレルギーや障害のある子どもへの配慮」については、「その他」が20%であることから、「自分の子どもが該当しないので分からない」という人が多いためだと思われます。職員の対応に関しては、自由記入欄に「一生懸命にやっているのが分かる」「熱心」「親切で明るい」「本当によくしてくれる」などの声が多数寄せられています。

【問8】保育園を総合的に評価すると

満足が約85%、不満が約13%です。

【問9】園への要望など

“保育士が辞めずに定着してほしい”“職員の労働条件を考えてほしい”“人数を増やしてほしい”というものが比較的多くありました。また“先生と保護者の区別がつかないので、先生は名札や腕章をつけて分かるようにしてほしい”というものも複数あります。その他、施設、設備、遊具の改善を望む声がありました。

まとめ

- ◇ 満足度が90%以上、あるいは90%近い項目は、「子どもが給食を楽しんでいる」「給食の献立内容」「子どもが保育園生活を楽しんでいる」「子どもが大切にされている」「戸外遊び」「子どもの体調への気配りがされている」です。園の子どもへの対応については、高い満足度が示されています。一方、不満、要望の多いものが「施設設備」「外部からの不審者対策」「子どもに関する園との話し合い、情報交換」についてです。
- ◇ 保護者アンケートの回収率は50%強ですが、回答をよせた55名の保護者うちの45名程度が、自由記入欄にさまざまな意見、要望を書いていることから、園に対する関心度の高さ、期待度の高さがうかがえ

ます。民間移管後2年目で、園・保護者双方とも、子どものより豊かな生活に向けて、互いの思いを一致させ良い関係を作っていこうと頑張り、徐々に成果があがっている時期です。

- ◇ 「施設設備」「外部からの不審者対策」については、今後も保護者会と話し合いながら、相互理解と解決に向かうことが期待されます。
- ◇ 「子どもに関する園との話し合い、情報交換」については、保護者から、もっともっと園と、保育士と、話し合いたい、という願いが多く寄せられています。園としてその声に答え、さらに保護者一人ひとりの交流を図ることが望まれます。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

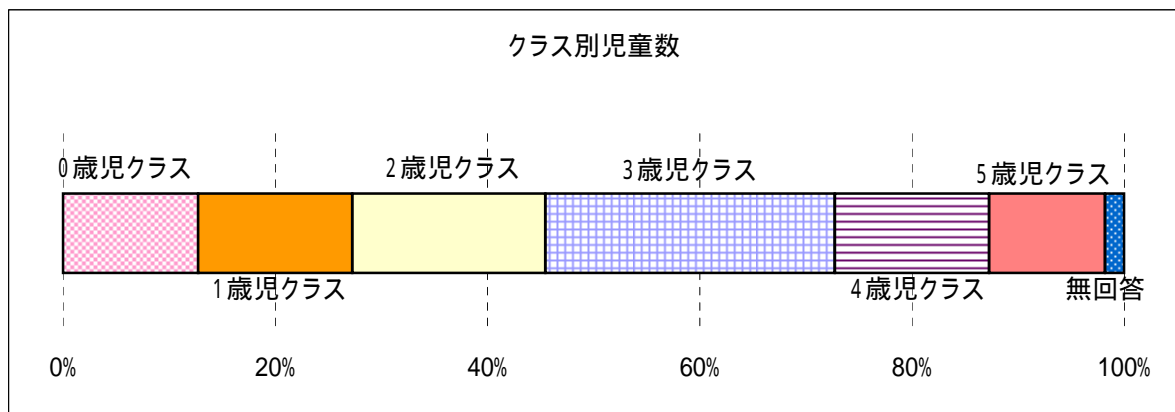
実施期間： 2009年 1月19日～2月1日

回収率： 53.4% （回収55枚 / 配布103枚）

【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
55	7	8	10	15	8	6	1

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



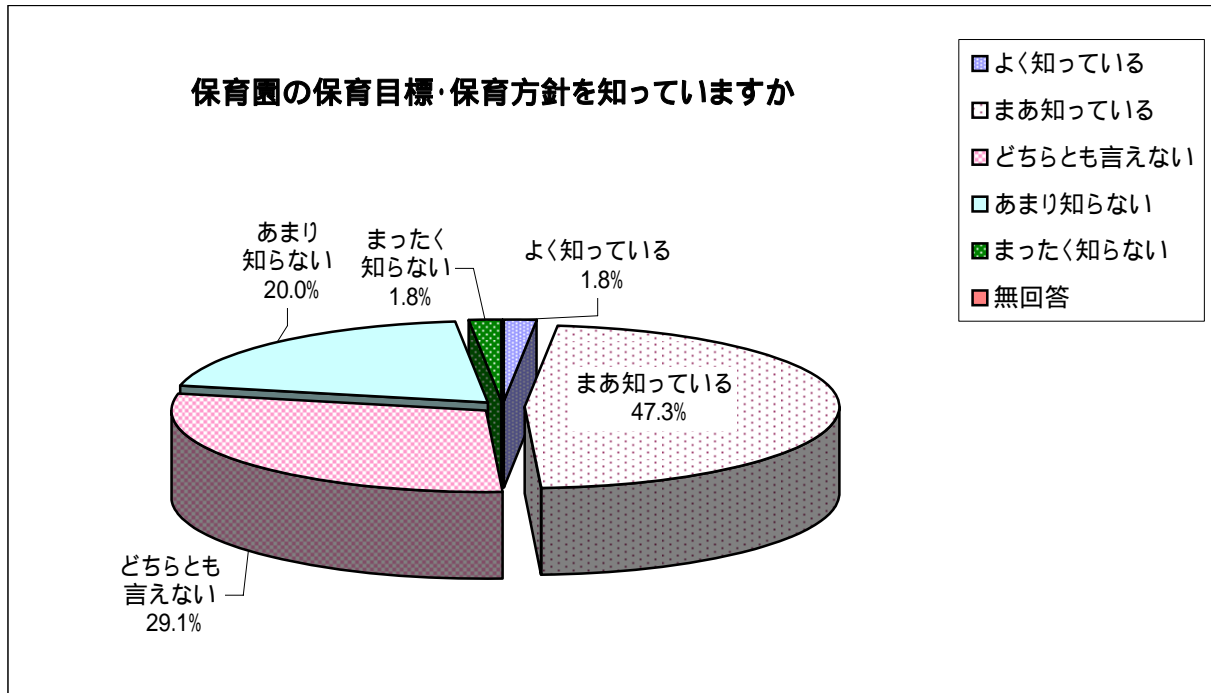
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	1.8	47.3	29.1	20.0	1.8	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

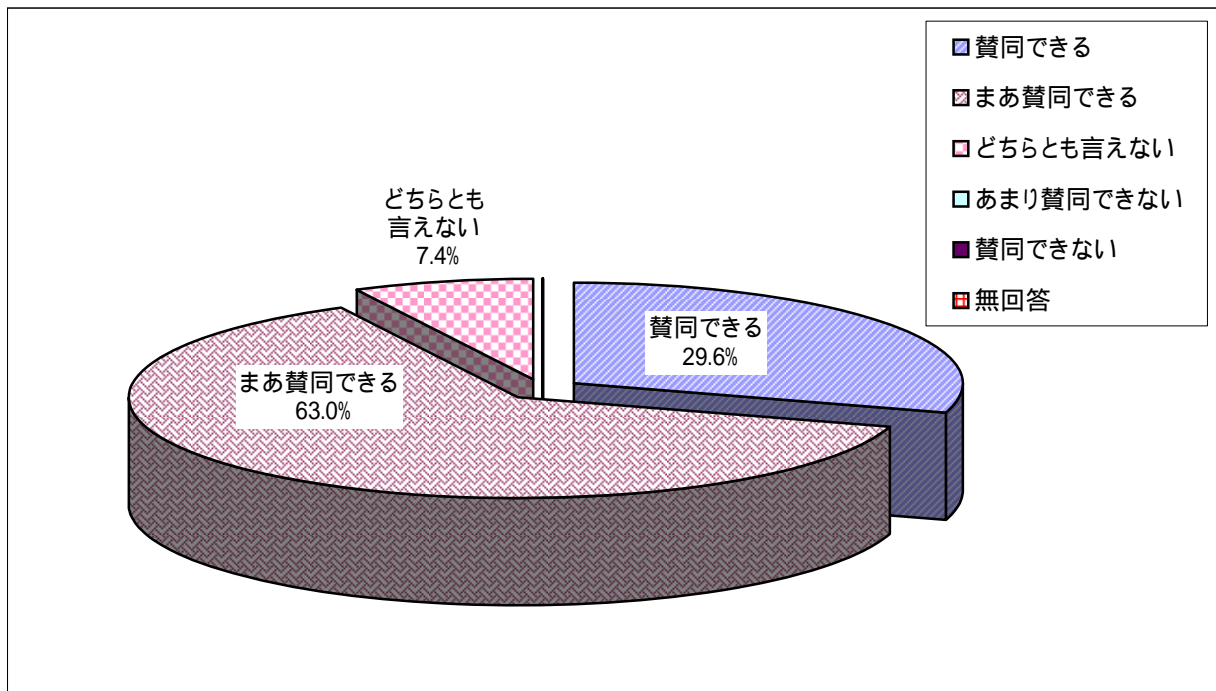


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	29.6	63.0	7.4	0.0	0.0	0.0	100



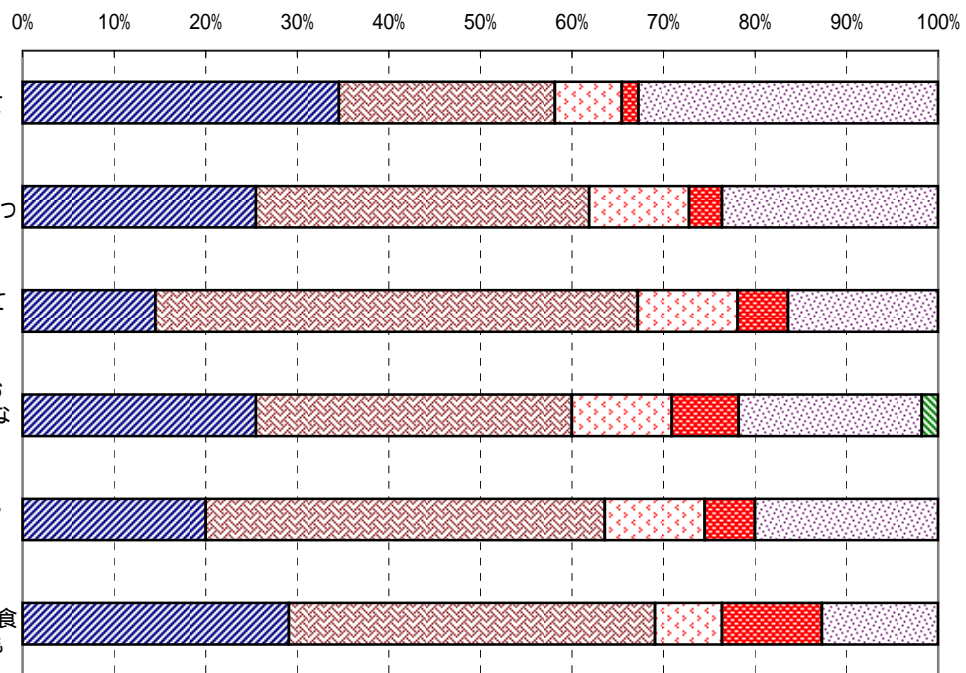
保育園のサービス内容について
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	34.5	23.6	7.3	1.8	32.7	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	25.5	36.4	10.9	3.6	23.6	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	14.5	52.7	10.9	5.5	16.4	0.0	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	25.5	34.5	10.9	7.3	20.0	1.8	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	20.0	43.6	10.9	5.5	20.0	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	29.1	40.0	7.3	10.9	12.7	0.0	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



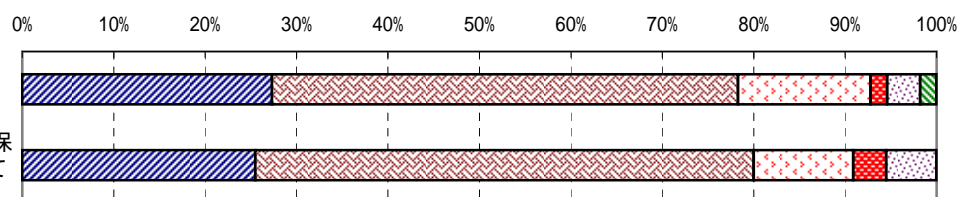
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	27.3	50.9	14.5	1.8	3.6	1.8	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	25.5	54.5	10.9	3.6	5.5	0.0	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問4 日常の保育内容について

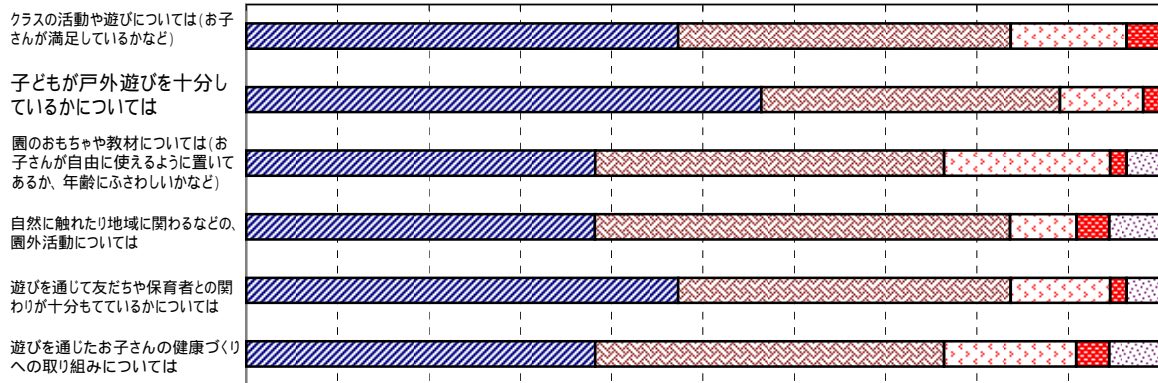
(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	47.3	36.4	12.7	3.6	0.0	0.0	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	56.4	32.7	9.1	1.8	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	38.2	38.2	18.2	1.8	3.6	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	38.2	45.5	7.3	3.6	5.5	0.0	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	47.3	36.4	10.9	1.8	3.6	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	38.2	38.2	14.5	3.6	5.5	0.0	100

日常の保育内容「遊び」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



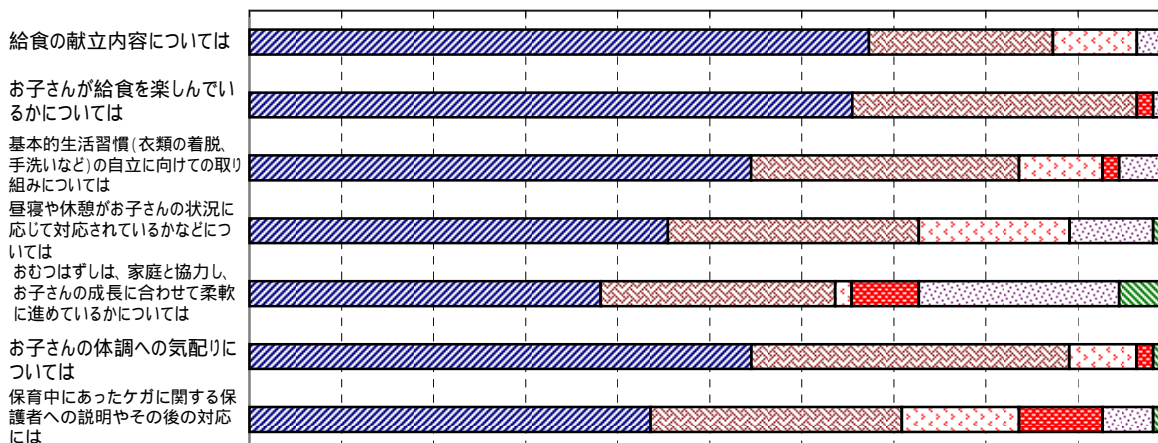
(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	67.3	20.0	9.1	0.0	3.6	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	65.5	30.9	0.0	1.8	1.8	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	54.5	29.1	9.1	1.8	5.5	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	45.5	27.3	16.4	0.0	9.1	1.8	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	38.2	25.5	1.8	7.3	21.8	5.5	100
お子さんの体調への気配りについては	54.5	34.5	7.3	1.8	0.0	1.8	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	43.6	27.3	12.7	9.1	5.5	1.8	100

日常の保育内容「生活」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



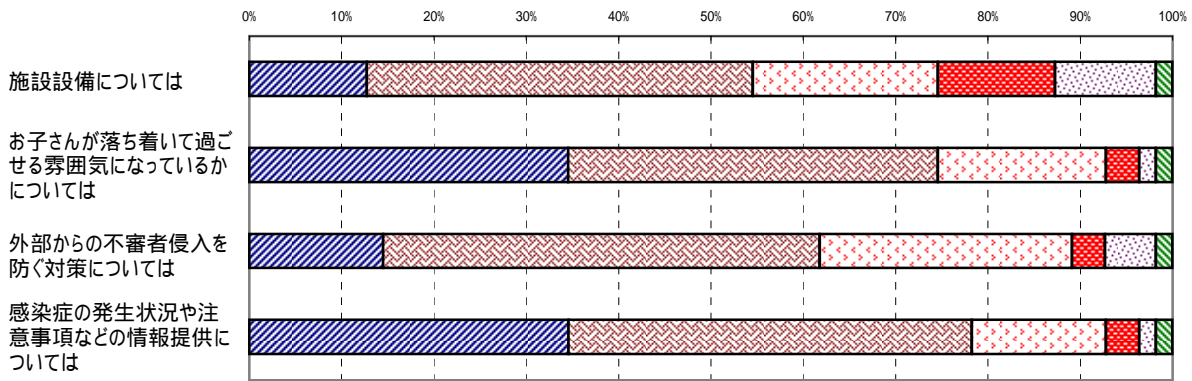
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	12.7	41.8	20.0	12.7	10.9	1.8	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	34.5	40.0	18.2	3.6	1.8	1.8	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	14.5	47.3	27.3	3.6	5.5	1.8	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	34.5	43.6	14.5	3.6	1.8	1.8	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答



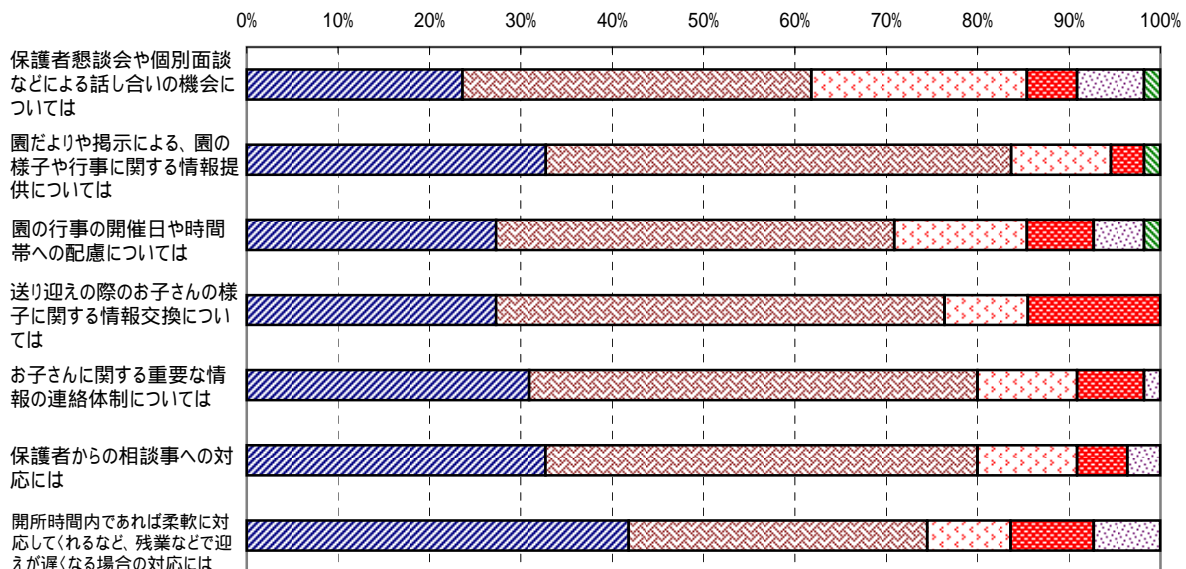
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	23.6	38.2	23.6	5.5	7.3	1.8	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	32.7	50.9	10.9	3.6	0.0	1.8	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	27.3	43.6	14.5	7.3	5.5	1.8	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	27.3	49.1	9.1	14.5	0.0	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	30.9	49.1	10.9	7.3	1.8	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	32.7	47.3	10.9	5.5	3.6	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	41.8	32.7	9.1	9.1	7.3	0.0	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答



問7 職員の対応について

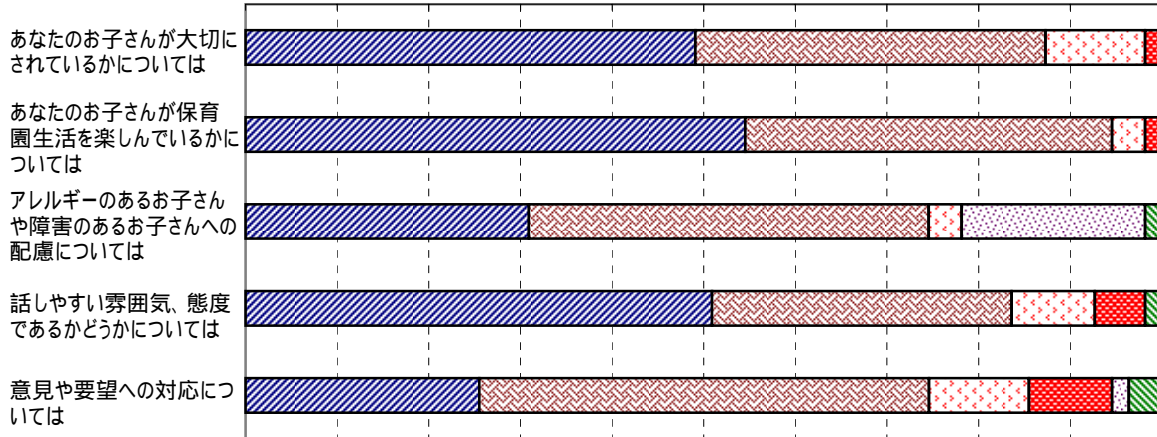
(%)

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	49.1	38.2	10.9	1.8	0.0	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	54.5	40.0	3.6	1.8	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	30.9	43.6	3.6	0.0	20.0	1.8	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	50.9	32.7	9.1	5.5	0.0	1.8	100
意見や要望への対応については	25.5	49.1	10.9	9.1	1.8	3.6	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

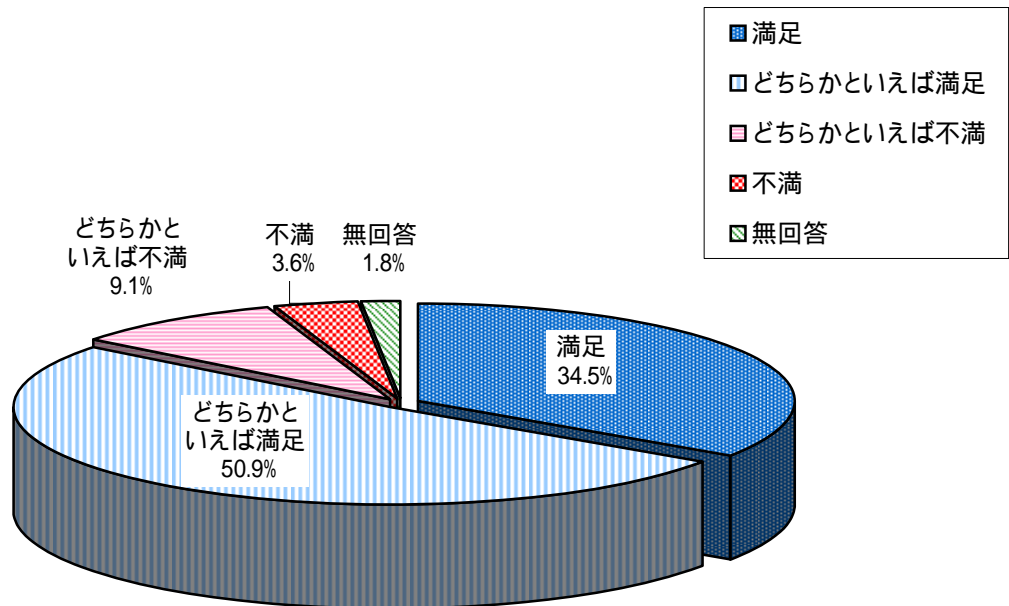
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	34.5	50.9	9.1	3.6	1.8	100



利用者（園児）本人調査 分析

【日吉西夢保育園】

観察調査 2月25日(水)9:00~12:00 2月27日(金)8:25~16:00

観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

誕生会

調査1日目は、2月の誕生会でした。各クラスで朝の集会をした後、全園児がホールに集まってきます。全クラスがそろうまで、1人の保育士が演技を交えて「大きなかぶ」のお話をします。ホールの子どもたちは笑って楽しめます。全クラスがそろうと、園長先生が、ギブスの手を見せて、転んで手の骨を折ったお話をしました。幼児は耳をすまして聞いていました。

その後誕生日が2月である十数名の子どもが前に出ます。一人ひとりがお祝いカードをかけてもらい、一人ひとりにほかの子どもから「好きな動物は何ですか」などの質問があります。続いてハッピーバースデーの歌を、子ども一人ひとりの名前を入れて何回も歌います。子どもは少し照れながらもとてもうれしそうでした。

乳児はだんだんに集中力が続かなくなりますが、次に「着せ替えゆきだるま」のパネルシアターが始まると、全員、身を乗り出して集中しました。裸の雪だるまは最後におひな様の衣装を着て満足します。そして全員で「ひな祭り」の歌を歌って集会が終わりました。

30分ほどの集会は時にざわつくこともありましたが、乳児も最後まで楽しく参加しました。集会の間、5歳児が、ちょっと飽きてきた1歳児のほっぺやお腹を触ってあやしたり、だっこしたりする様子が見られました。また、保育室からホールへは広く長い廊下を歩きますが、その行き帰り、ごく自然に、年齢の大きい子どもが小さい子どもの手を引いてあげたりしていました。

0歳児クラス

誕生会の後、昼食までの20分ほどの間、子どもたちは保育室で思い思いに遊びました。一人が、大きなスカーフをマントのように肩からかけてもらおうと、「アンパンマン」に変身です。「アンパンマン」が手提げ袋を手に持って部屋中を走り出すと、ほかの子どももやりたくなります。遊びは1人遊びですが、ほかの子どものすることをよく見ています。畳のコーナーで布団にぬいぐるみを寝かしつける子どももいます。

時々手提げ袋やぬいぐるみでトラブルが起きました。友達の持っている手提げ袋やぬいぐるみが欲しくてひっぱりますが、「貸してくれない」と泣きます。すぐに保育士が入って、別の袋をあげると機嫌がなおることもあります。「どうしてもこれがほしい」と要求することもあります。すると保育士は2人に優しく「交換しよう」と持ちかけ、解決していました。

1歳児クラス

子どもたちはクラスの小さい集会で保育士のお話を聞いたり、一緒に歌を歌ったりします。自分の思いを一生懸命にお話します。友達のものが欲しいときは「貸して」ということや、順番も分かってきています。保育士のひざで「お舟はぎっちらこ」をしてもらいたい子どもがたくさんいましたが、「順番に」と言われるとちゃんと待っていました。

食事のときには自分でエプロンをつけたり、ほかの子どもにつけてあげようとしていたりする子どももいます。食事の前には手を洗ってから、さらにアルコール消毒液を手に噴霧してもらいます。スプーンの使い方が上手になっていて、食事には集中します。そして食後には、エプロンはずして自分で洗い桶に入れに行きます。歯磨きもします。トイレのときには、ほとんどの子どもが自分でズボンとオムツを脱ぎます。はくのは

少し難しいですが、保育士はゆっくり見守って、できないところを手伝ってあげていました。

2 歳児クラス

この日の主な活動は粘土遊びでしたが、全員が一斉に粘土で遊ぶのではなく、粘土をしたい子どもが集まって保育士と一緒にいろいろ作ります。別の遊びをしている子どもたちもいます。カードゲームをやりたい子どもには、保育士が1対1で相手をしていました。その子どもは、しばらくすると満足して、次は粘土のテーブルへ行きました。ブロックで遊んでいる子どもたちも粘土遊びを見に来たり、仲間に入ってきたりします。全体の集中力が弱まってくるころ、片付けになりました。トイレでは、一人でできる子どもが多くなっています。保育士は「すごい、ちゃん、一人でできたね!」としっかり褒めてあげ、子どもも満足げでした。

食事の前は絵本を読んでもらいます。子どもたちは絵本や紙芝居が大好きで、真剣に耳を傾けていました。お話が終わった後、保育士とそのお話について話し合ったりもしています。

3 歳児クラス

朝はそれぞれ自由に遊んでいますが、保育室には「アンパンマン」の音楽が流れ、曲に合わせて保育士と一緒に踊っている子どももいました。天気が悪くて外に行かれないためか、朝の集会の後も、曲に合わせてポーズをとったり、エアロビクスのような体操をしたり、よく体を動かしました。途中、雪が降り出し、子どもたちは大喜びでした。その後室内で遊んでいるときも雪が気になり、ベランダに出て「もっと降り〜」と声を合わせます。保育士が黒い紙を持って来て、雪を乗せてみたりしました。

子ども同士のトラブルのときに、「ごめんねって言わないと、先生に言うよ」というやりとりで、子ども同士で解決する場面が数回ありました。

この日は金曜日で、お昼寝の後、週末に家に持って帰るものを自分で用意しました。脱いだパジャマをたたんでしまい、布団カバーも自分ではずします。難しいところは保育士に手伝ってもらっていました。

4 歳児クラス

この日の主な活動はおひな様作りでした。朝、子どもたちが自由に遊んでいるときから、一つの机に材料が置いてあります。興味を持った子どもはやって来て、保育士に聞きながら作り始めます。出来た作品は壁に展示します。朝の集会で、保育士は出来上がった作品をみんなに見せて、作り方を説明しました。「出来たものは家に持ち帰っていい」と保育士が言うと、子どもたちは口々に「お母さんにあげる〜」と言っていました。

ひな人形づくりは一斉にはしません。4~5人が呼ばれて製作テーブルで作り、ほかの子どもたちはそれぞれ自分の好きなおもちゃを持って来て、自然に小グループになって遊びます。ブロックやままごとのほか、数字や平仮名に関心を持つ時期で、カルタやトランプが人気です。何人かでカルタ取りをやっているところに、ほかの子どもが来て「入れて」と言うと、「いいよ」と入れてあげます。これがルールになっているようでした。

5 歳児クラス

幼児クラスは当番がいて、年齢が高くなるほど役割も多くなります。5歳児クラスでは、朝の集会で当番がみんなの前に立つと、全員が「よろしくお願ひします」、当番は「がんばります」と答えます。当番は昼食の前、まだみんなが遊んでいるときに、ランチルームの各テーブルにテーブルクロスをかけたり、配膳をしたりコップを並べたりします。

ほかの子どもたちは遊んだ後の片付けを終えてからトイレに行き、ランチルームの準備ができるまで保育士に紙芝居を読んでもらいます。子どもたちは紙芝居の内容についてよく言葉が出ます。「婿ってなーに?」するとほかの子どもがすぐに「およめさん!」と答えます。「むかしむかして本当にあったこと?」、今度

は子どもたちには分かりません。保育士は「どうかな？どうだろう」と、子どもたちの質問に丁寧に受け答えしていました。

まとめ

園全体として、スキンシップを大事にしている様子が度々観察されました。登園時も、別れ際に保護者がギュッと子どもを抱きしめ、保育士も抱きしめたり抱っこしたりして迎える姿がよく見られました。子ども同士のトラブルの後、理解しても気持ちがおさまらない子どもを、保育士が抱っこして気持ちを和らげてあげる姿もありました。事務室は困ったときに逃げ込める子どもたちの別室です。

子どもたち同士では、年齢の大きい子どもはごく自然に小さい子どもの手を取り、歩調を合わせて歩いてあげます。また、子どもたちは絵本や紙芝居が大好きで、じっくりと真剣に耳を傾けます。園全体で一人ひとりの気持ちが大切にされ、子どもたちは落ち着いて人の話を聞くことや、ほかの子どもを思いやる心が育っているようです。

事業者コメント

第三者評価を受審した収穫は、「実践内容を第三者に分かるように記録する」ことの重要性でした。保育実践に関する記録は十分ではないが、必要と思われることについては、記録していると自負していました。しかし、評価を受審する経験を通して、あらためて足りなかったところなど、新たな課題などが明らかになり、私としては大収穫でした。その他に、実践していたことの整理とまとめの作業を通して、保育士の仕事を整理する、分析する、理論化するなど、受審のための作業の効用は計り知れないものでした。

この度の経験で分かったように、記録の重要性を再認識し実践しつつ、子どもが健やかに、心から安心して過ごすことができる保育園作りを忘れないで、保育目標の中心にドンと据えながら、今後も保育園職員一同力を合わせていきたい、と考えました。

第三者評価受審という良い機会を与えていただき、多くのアドバイスをいただいた市民セクターよこはまの方々に、心よりお礼を申し上げます。

園長 杉元 玲子

今回の第三者評価を受けるにあたっては、民間移管 2 年目ということで、ちょっと早いかな？と不安な気持ちが先にありました。しかし、自己評価をしながら日頃の保育の中でのなされているはずのことが、実はなされていないこと、主任という立場で職員をまとめ、より働きやすい職場作りをするために何が足りなかったか？など、今までの保育を見直す良い機会とさせていただきます。

勉強会を行ったことで、日頃職員が疑問に思っていたことや、保育に対して思っている意見などを聞くことができ、職員同士のさまざまな意見交換を通して、理解を深めることができました。

また、今回の第三者評価で見えてきた課題「地域の子育て支援のニーズに対応できる保育園」のためにより広い情報の発信、関連施設との連携などを積極的に行い、地域のニーズの把握を積極的に進めていきたいと思えます。

主任 唐戸 静子

勉強会などを通して保育や園に関することを再度確認することができ、また、全体で意志の統一もできたので良かったです。

当日は一緒に絵本を読んでいただき、子どもたちもとてもうれしそうに遊んでいただきました。誕生会、室内遊びとゆったり落ち着いて過ごすことができました。

0 歳児クラス担任 飯田 実花

第三者評価を受けるにあたり、クラス担任の間で、日頃の保育を再度見直す良いきっかけになったと思います。

例えば、領域の項目を一つずつ見ていくことで、日々の保育を振り返りながら、大切にしなければいけないことを、共通理解を深めることができました。また、工夫事例などを話し合っていく中で、他クラスの意見を聞き、「こういう方法もあるんだ！」と参考になりましたし、保育園職員が、一つひとつに対して共通理解できたことは良かったです。

これからも、よりよい保育を心掛けていきたいです。

1 歳児クラス担任 安斎 千恵美

今回、第三者評価を受けるということで、全職員で保育理念、保育内容、環境、職員の連携体制等を一つひとつ見直し、意見交換を行ったことで、どのような保育を行ったらいいか、ということを確認し、改善することができ、とても良い機会だったと思います。

また、第三者評価調査員の方々がいらしたときも、緊張はしましたが、普段通りの保育を行って、普段の子どもとの関わり、子どもの姿を見ていただこうと思いました。普段からスキンシップを大切にしていたのですが、ヒアリングで「スキンシップを多くしているようですね」と気付いていただき、自信となりました。

今後も、子どもとの関わりを大切に、子ども、保護者にとって、より良い保育を行っていききたいと思います。

2 歳児クラス担任 矢野 亜梨沙

第三者評価を受けて、現場で得た知識や経験だけではなく、保育指針や勉強会を通して自己の保育の振り返りをすることができました。普段の保育と評価項目の照らし合わせが、保育の見通しを図る機会となったのが良かったです。また、勉強会をすることにより、職員同士のチームワークの大切さや、お互いの気づきを促すことができ、職場全体の雰囲気も良くなったと感じました。

今まで取り組んできたことを大切に、今後のより良い保育につなげていきたいと思えます。

3 歳児クラス担任 及川 義明

今回、第三者評価を受けてあらためて保育のあり方を考えさせられました。

クラスとして子どもたち個々の特性を生かしながら、クラス運営を行ってきた中で、私たち保育士が子どもたちに与える影響の大きさをあらためて考え、見直す良い機会となりました。

これまでの保育を振り返られたことにより、担任同士で意見交換も活発になりました。子ども一人ひとりについて新たな発見を目指し、これからの保育に取り組んでいきたいです。

4歳児担任 茂木 清夏

この週は雨続きで一度も外に出ることができず、園庭での様子を見ていただけなかったことが残念でしたが、日頃の室内での姿をそのまま見ていただけたらと思い、いつも通り過ごしました。普段通りの姿を見ていただき、ヒアリングで「楽しそうでしたね」と言っていたことが、何よりうれしかったです。また、職場での学習会ではあらためて職員間の意識の統一ができ、とても良い機会となりました。

5歳児担任 三浦 里美

今まで自分がしてきた給食作りや、食育を評価されることから、給食部門だけでなく、園全体のことをあらためて見直し、勉強するとても良い機会となりました。

定期的に行っている食事の様子を見に行くことも、食育を行う上では欠かせないことであり、子どものやりとりの中で、現在の食事に対する問題点が見えてくるのだと思います。

今後は、もっともっと多くの方に保育園の味を知ってもらえるように機会を増やすとともに、子どもたちがさまざまな食育を通して、食に興味を持てるよう、いつも子どもたちの身近にある給食室でありたいです。

管理栄養士 柳元 亜沙美

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.k-daisansyahyouka.org/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 26 番地 洋服会館 2 階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
